第 168 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録（案）

日時： 2003 年 6 月 20 日（金）13:00～17:00

場所：電気倶楽部（新有楽町ビル 10Ｆ）

出席者（順不同、敬称略）：

委員長：岡本（電中研）

委　員：山之内（日新電機）、武内（日立）、鈴置（名大）、小山（東芝）、杣（日立電線）、武藤（三菱電機）、岡本（富士電機総研）、後藤（コンサルタント）、高橋（フジクラ）

幹　事：宮下（三菱電線）、内田（中部電力）

幹事補佐：岡下（昭和電線）、西川（芝浦工大）

オブザーバ：木村（九工大）

資料：

番号なし 第 167 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録

168-1　誘電・絶縁材料技術委員会委員名簿(2003 年 6 月 20 日版)

168-2　第 55 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録（2003 年 3 月 14 日）

168-3　第 56 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録（2003 年 5 月 9 日）

168-4　調査専門委員会フォローシート(2003.1 時点)

168-5　柔構造を持つ有機電気・電子材料のナノテクノロジーへの展開に関する調査専門委員会設立趣意書（案）

168-6　ポリマーがいし材料表面の放電特性評価と劣化現象調査専門委員会第５回議事録

168-7　第１,2 回「ケーブル・電気機器のオンライン計測による絶縁劣化診断」調査専門委員会議事録

168-8　ナノコンポジット委員会（第１回～４回）議事録

168-9　平成１５年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定案（２次案、20030620）

168-10　各技術委員会の技術会合および見学会の予定表

168-11　誘電・絶縁材料研究会　テーマ「電子機器絶縁と国際規格」プログラム案（工学院大学,9/9,10）

168-12　放電研究会(H16.1、沖縄)の会告案

168-13　ICPADM2003 報告

168-13 付 1　ICPADM2003 へのご支援に対するお礼

168-13 付 2　CIGRE Workshop on Nanodielectrics 開催報告

168-14　第 35 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム実行計画・予算（案）

168-14 付　A list of guest speakers at symposia on electrical insulating materials

168-15 First Announcement 2005 International Symposium on Electrical Insulating Materials (June 5-9, 2005, Kitakyushu City, Japan)

168-16　誘電・絶縁材料技術委員会方向性メモ
168-17　犬石賞、家田賞、矢作賞について
168-17 付　『誘電・絶縁材料技術委員会表彰規定』、『誘電・絶縁材料技術委員会表彰受賞者案選定』規定細目
168-18　誘電・絶縁技術委員会　シニア委員規則（案）
168-19　誘電・絶縁材料技術委員会業務分担案
168-20　Call for Papers, 2003 J-K Joint Symposium on ED & HVE　(Nagasaki, Japan, Nov. 6-7, 2003)
168-21　国際 EINA ミーティング（速報）

議事
１．第 167 回議事録(案)である。
西川幹事補佐が読み上げ、一部訂正の上承認された。

２．資料 168-2,3
木村前委員長より A 部門研究調査運営専門委員会について報告がなされた。技術報告書売り上げの一部還元、活動資金（講演会）、運営委員会委員の交代等について報告があった。誘電・絶縁材料技術委員会は黒字委員会が多いので、技術報告書の売り上げが還元される可能性が高い。使途は技術報告関連の講演会などである。

３．資料 168-4
調査専門委員会フォローシートである。宮下幹事に調査専門委員会の今後の委員会予定等の開催状況をご連絡頂き、フォローシートを更新することとした。

４．資料 168-5
小野田氏より提出された新調査専門委員会設置趣意書（案）（委員長、岩本委員、幹事、小野田氏、杉村氏）について委員長より説明がなされた。以下のコメントがあった。
・柔構造は範囲が広いので対象としているものがわかるような具体例を盛り込んで欲しい、
・趣意書での同一の項目が繰り返されているので、削除してはどうか。
以上のコメントを小野田氏にフィードバックした上で趣意書をご訂正頂き、7/2 の運営委員会で提出することとした。

５．資料 168-6
ポリマーがいし材料表面の放電特性評価と劣化現象調査専門委員会第５回議事録であり、後藤委員より説明があった。

６．資料 168-7
第１,2 回「ケーブル・電気機器のオンライン計測による絶縁劣化診断」調査専門委員会議事録である。内田幹事より一般公募による委員就任があったとの報告があった。

７．資料 168-9
宮下幹事より H15 行事予定案(2 次案)について以下の説明があった。
・ICPADM のため、7 月トリーイング・放電一般は中止、
・11 月若手セミナー開催について検討中
・1 月環境調和材料は全国大会シンポジウムのために中止、ポリマーがいし・界面絶縁は B 部門と共同で検討中、
・技術委員会の今後の開催は 8 月、10 月を予定し、年５回程度を予定している
・A 部門誌の英文化と関連して、11 月開催の J-K シンポジウム特集で論文誌に掲載されるので、ご投稿願いたい（木村氏）
などの報告がなされた。

８．資料 168-10
各技術委員会の技術会合および見学会の予定である。委員長より次世代工学センターの見学(10 月)の提案がなされた。その他の候補もご提案いただきたい。若手セミナーについては、開催の是非について議論がなされた。今後の技術委員会の方向性と関連するので、幹事団で検討することとした。

９．資料 168-11
誘電･絶縁材料研究会テーマ「電子機器絶縁と国際規格」プログラム案（工学院大学,9/9,10）であり、承認された。

１０．資料 168-12
放電研究会(H16.1、沖縄)について紹介がなされた。

１１．資料 163-13、13 付
ICPADM2003 について鈴置委員より、以下の報告がなされた。
・論文数 307 件（オーラル 131 件、ポスター176 件）があった。
・CIGRE とのジョイントセッション、ヨーロッパ勢の多数の参加が今回の特色であった。
・約 260 名（海外より 85 名）の参加であった。
・SARS のために参加を受け付けないことに関するトラブルはほとんどなかった。
・国際諮問委員会において Ieda Memorial Lecture の正式設置、

・次回インドネシアバリ島での開催が決定された。
・JTB によるネット登録がわかりにくいという苦情はあった。また、事務局と JTB の連携に問題があった。
・ネットによる情報公開により、多くの問い合わせがあり、ビザの発行を求められるが、身元保証の問題などがある。

１２．資料 168-14、14 付
第 35 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム実行計画・予算（案）であり、西川幹事補佐より説明がなされ、承認された。次回の 8 月技術委員会までに 2 名の招待講演者をご推薦いただき 100 周年基金に申請をしたいので宮下幹事へご連絡いただきたい。

１３．新幹事団挨拶
岡本新委員長および内田新幹事より挨拶があった。また、以下の委員交代が承認された。
委員交代：前田委員(富士電機総研)→岡本健次委員(富士電機総研)
　　吉満委員（東芝）→小山委員（東芝）

１４．資料 168-8 付
ナノコンポジット調査専門委員会（第１回～４回）議事録である。活動状況について後藤委員より説明がなされた。

１５．資料 168-13 付
宮下委員より、ICPADM2003 に合わせて開催された CIGRE Workshop on Nanodielectrics について報告がなされた。

１６．資料 168-15
ISEIM2005 開催提案書(第 1 次案)であり、岡本委員長より説明がなされた。現地実行委員長として匹田先生(九州工大)の就任が報告された。財務、出版およびアジア関係の委員は未定である。7/2 開催の A 部門運営委員会への提出を承認した。各委員より、以下の意見・コメントがあった。
・予算規模は適正か。参加費 35000 円は安すぎるのではないか。
・早稲田大学、九州工大を共催もしくは協賛団体に名前に入れて資金援助を得たい。イベント誘致のために九州地区からの援助が期待できる。ただし、補助対象外にならないよう参加人数に注意する必要がある。
・ICPADM2003 でも申請した、大阪万博の基金の申請も考慮してはどうか。
・北九州市が環境に力を入れているので、「環境」というキーワードをアピールすべき。
・ISEIM など国際会議の活動は電気学会の国際活動委員会への活動報告をする必要がある。

特に EINA 活動は高く評価されているので、誘電・絶縁がいっそうのアピールをすべきである。

１７．資料 168-16
岡本委員長より拡大幹事会（5/28 開催）の議論の結果を報告がなされた。今後の技術委員会運営に関する方向性メモである。新委員会として情報通信のための誘電絶縁材料（高周波関連、通信総研の福永氏)、機器診断とアセットマネージメントについては未定である。各委員より以下の意見が出された。
・メーカにとってのメリットのある活動をするべきである。
・現在参加されている委員のカバーする分野を議論すべき。
・分野としては「材料」という横断的な切り口、「電力」という切り口がある。また、静電気応用という観点から、エレクトレット、リサイクル材料がある。
・企業では最新分野の研究成果は出しにくい。たとえば、パワー半導体用の SiC の絶縁関連（チップ外部）はメーカにとって興味があり、プリント基板でも同様の状況である。
・半導体パッケージングの問題など、電子機器関連の問題が体系的に取り組まれていない。環境対応による材料の変化への対応なども重要である。
・国際規格に関連する研究分野では、プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査委員会を除いて大学での取り組みが少ない。
・熱劣化も含めた加速劣化試験の方法など、課題は多い。
・高電圧ではなく、高電界というキーワードで議論すべきである。
・ポリマーがいしの規格化においては、その基礎が良くわかっておらず劣化のメカニズムに立ち戻って調査専門委員会で議論している。

１８．資料 168-19
幹事団メンバーの変更に伴う業務分担について岡本委員長より説明がなされた。

１９．資料 168-17、168-17 付
犬石、家田、矢作賞選考委員会のメンバーの変更について、岡本委員長から報告がなされた。選考委員会委員長として、岡本委員長から内田幹事への変更が承認された。

２０．資料 168-18
シニア委員規則（案）である。本委員会のシニア委員制度の新設について、岡本委員長より報告がなされた。
・学会の規定で１号委員の定員が 15 名であり、１号委員の任期は３年１期で２期までとなっているが、実際にはそのように運営されていない、
・多忙で出席できない委員がいるなど、委員構成が硬直化している

・後任がいないという人材の問題点、
・本制度により、１号委員を実質的に多くすることが可能となるなどのメリットがある、
これに対し、シニア委員の増加で若手委員が決めにくくなる可能性もあるので、導入には注意が必要であるとの意見が出され、今後も検討することとした。

２１．資料 168-20
J-K シンポジウムの申し込み募集について、木村前委員長より紹介があった。

２２．資料 168-21
ICPADM2003 開催中 6/2 に行われた国際 EINA ミーティングについて、宮下幹事より報告があった。ヨーロッパからの参加者もあり、アジアだけでなく、EINA マガジンを送付してほしいとの要望も出された。

２３．次回委員会について
日時場所：未定。

以上。